

新型コロナウイルス感染症への対応



町議会

町では、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける方々への経済支援策や介護、子育て、教育などの緊急対策事業が一刻も早く提供できるようにと、対策本部を立ち上げるなどの対応をしています。今回、各セクションで陣頭指揮を執る6名の職員からお話を伺いました。



東京都ホームページより

感染拡大防止

町民の皆様の協力に感謝



特別定額給付金
給付事業の
本部長を務める
横沢住民部長

Q 国から一人当たり10万円支給する特別定額給付金の支給が、近隣市と比べて早かったですね。
— いち早く本部を立ち上げ、5月の連休返上で準備しました。結果的には郵送方式による申請書は都内で5番目、振り込みも6月5日の段階で給付済み世帯が40・3%で3番目でした。職員全員が一丸となって協力してくれたおかげだと思います。
Q 作業を進める上で大変だったことは？
— 国から一人当たり10万円支給する特別定額給付金の支給が、近隣市と比べて早かったですね。

住民の方からの問い合わせが殺到していました。特に「生活が厳しく一日でも早く給付してほしい」という声が届けられていました。少しでも早く給付できるように、電算システム会社、郵便局、金融機関との調整などをはじめ、作業する職員自らが感染しないように細心の注意を払いながら行いました。
Q 町ではいち早く専用ダイヤルを設置しましたが。
— 町長からの指示で4月15日に設置しました。各部から選出された6名で対応しました。当初は生活支援策についての問い合わせが多かったです。4月下旬からは特別定額給付金に関する問い合わせが多くありました。



保健関係を
担当する
工藤健康課長

Q 健康課では特に重要な役割として意識していたことは何ですか？
— 感染拡大防止です。そのため、国や都からの情報だけでなく町長からの自粛や協力要請などのコメントも発信しました。町民の皆様のご協力に

感謝しています。

Q 通常の保健事業への影響は？
— 予定していた乳幼児健診の日程の組み直しでは調整に苦労しましたが、担当職員の工夫と医療関係者の皆さんのご協力をいただくことで、実施できています。
Q 医療機関や介護施設などにマスクを届けましたが。
— 新型コロナウイルス対策で備蓄していた約2万枚のマスクを医療機関、介護施設、児童福祉施設など、現場の状況を調査して配布しました。

Q 妊婦さんや乳幼児の保護者の皆さんから相談がありましたか？
— 妊娠中や子育て中の方を対象にした事業などが中止を余儀なくされたことから、「必要な知識を得る機会が減ってしまう」との相談が寄せられました。そこで、町の母子保健コーディネーター、保健師、管理栄養士などが、きめ細かく相談に応じました。また、町内の医師会、歯科医師会の先生方のご協力もあり、乳幼児健診をいち早く再開しました。

Q 緊急事態宣言中に特に気を付けていたことは？
— 感染者を出して保育園などが休園とならないことを第一に考えていますが、おかげさまで現在のところ、



保育園、学童保育
などの子育て環境
を担当する
石川子育て応援課長

製造業では生産活動への支障、建設業では現場が止まり、また、外出控えにより小売業、サービス業、農業ほか多くの産業に影響が出ています。
Q 問い合わせも多かったのでは？
— 国や都の補助金などについて、多くの問い合わせがあります。セーフティネット保証については「一日でも早く」という切迫した声も多数寄せられ、担当職員もその声に応えられるようにと処理を進めました。



産業関係を
担当する
長谷部産業課長

感染者は出ていません。利用者の皆様、保育園・学童保育クラブの職員の理解と協力のおかげだと思います。
Q 保育園や学童保育クラブの現場でのご苦労は？
— うがい、手洗い、換気、3密防止など、これまでにないほどの細心の注意を払って運営していただきました。また、学童保育クラブの支援員さん、小学校の3カ月間の休校に伴って午前中から対応していただきました。シフトの調整、長時間労働と、支援員の皆さんにはかなりのご負担をおかけしました。
Q 保護者の皆様からの声は？
— 特に声はありませんでした。感染状況をご理解いただき、ご協力いただいたものと感謝しています。



学校教育を
担当する
小熊教育指導課長

Q 町ではどのような支援を行っていますか？
— これまで、中小企業振興資金融資あっせん事業の利子補助や中小企業診断士による相談窓口を開設しました。8月からは、中小企業や農業者などを支援するため、事業継続支援給付金の給付事業を開始します。
Q 久しぶりに登校してきた子供たちの様子はいかがですか？
— 多くの子供たちが登校できる喜びにあふれています。臨時休業中、友達とSNSなどでやり取りしていたことなどを担任に報告していました。最初は生活のリズムを取り戻すことが大変そうでしたが、現在は、ほぼ通常時間で学校生活を送っています。
Q 学校で特に気を付けていることは？
— 感染防止です。各学校ではマスクの着用やソーシャルディスタンスなどの徹底のほかに、教室の扉など接触部分の消毒、楽器などの教具は使用前後の消毒を念入りに行っています。また、感染防止を強化するため、校外学習や公開授業なども中止または延期しました。

Q これだけは実施したいという行事はありますか？
— 運動会や体育祭などの行事は、社会



学校教育を
担当する
稲富統括指導主事

性を育み、思い出づくりに欠かせない大切な行事ですが、実施が難しい状況です。それでも小・中学校とも卒業生には修学旅行を3学期に行うことを認めています。これは教育長の強い思いからです。また、授業内容の確保ができた学校は3学期に学校行事を認めています。展覧会や合唱コンクールなどを実施予定にしている学校もあります。

Q 学習面での遅れを心配する声もありませんか？
— 町長からの指示もあり、学校閉鎖期間中にオンライン授業に取り組みことができました。特に、全小・中学校が一丸となって、時間割のようにオンライン授業を作成したのは、都内では瑞穂町だけではないかと思えます。作成に当たった教員は専門的な研修を受けていない中での作業だったので苦労したと思います。4月と5月に全15回ユーチューブで配信しましたが、一挙に多くの動画をアップしたため、ユーチューブの事務局から怪しまれました(笑)。しかし、オンライン授業だけでは約6週間に渡る授業の損失をカバーすることは容易ではないため、学校行事のカット、夏休みの短縮などで授業時間の確保に努めています。